



日本サーバス本部会報 2018年8月1日発行

日本サーバス会長

連日の猛暑、みなさまいかがお過ごしでしょうか。西日本豪雨の被災地ではこの猛暑の中で懸命な復旧作業が続けられています。被災地の方のご苦労と懸命に復興作業の支援をされているボランティアの方々の献身的な活動に頭が下がります。テレビ画面に映し出される豪雨や台風の爪痕にことばもありません。世界の各地から報道される自然災害に「明日は我が身」かも、と不安を覚えることがしばしばです。そのような中で、「ヒバクシャ国際署名」活動に取り組む高校生たちの声が聞こえてきました。暑い中、大人たちが作り出してきた悪魔の兵器の廃止に向かって、声を張り上げています。彼らの合い言葉は「ミサイルよりも鉛筆を！」「ビリョクだけど、ムリョクではない」一筋の光明を見た思いです。

今年の夏は「災害」とまで表現されている猛暑日が続いています。みなさまのご健康を心からお祈り致します。

今回の本部会報 2018年8月号では、主として各支部長からいただいた支部報告を中心に作成いたしました。お楽しみ頂けたら幸いです。

1 各支部の活動

- ・近畿支部：2018 日本モンゴル障がい児家族交流会と支部例会
- ・東海・北陸支部：移動例会の案内
- ・関東支部：観光地の下見を兼ねてウォーキング！
- ・九州支部：インドネシアサーバス交流の旅
- ・東北支部：サーバス受入れ報告

2 国際サーバス会報要約**3 日本サーバスの活動**

- ・A. 電子版ホストリスト (EHL) の発行について
- ・B. Servas Online (SOL) 利用について
- ・C. 2018年プロジェクトチームの結成について
- ・D. 国際会議 Servas International Conference and General Assembly 10月13日～20日
- ・E. 2019年度国内会議の期日

編集後記にかえて

1 各支部の活動

〈各支部長さんに寄せていただいた活動内容をご紹介します。Web掲載されたものと重複する部分があるかも知れませんが、ご容赦ください。〉

近畿支部

近畿支部における主な取り組み2つ

近畿支部長 H.T.

2018日本モンゴル障がい児家族交流会

日本サーバスが主催して行った2015年実施のモンゴルの方たちの障がい児教育研修で、子供たちに良き未来を作っていくためには、モンゴルと日本の障がい児・者家族が強く繋がりが合い、励まし合っていく事が大切だと思いました。そのため、2016年はモンゴルで交流キャンプを、今回は5月の連休を中心に、モンゴル側14名、日本側は一部参加も含めて44名の参加で大津市を中心に交流会を行いました。

「海に接していない国のモンゴルの子供たちに水辺での体験をさせてあげたい」をメインにプログラムを組みました。クルーズ船に乗って瀬田川から広いびわ湖に出て、湖からの快い風を受けて景色を楽しんだ瀬田川リバークルーズ、大小いろんな魚を真近かに見たり、魚のつかみ取りも出来た琵琶湖水産センター、海水浴のように水をかけ合ったり、浮き具を付けてよく泳いだ琵琶湖畔のプール、水族館では人気の高いイルカショー、アシカやオットセイの水槽、ペンギンの餌付け、多くの魚の巨大水槽等を楽しみました。

子供たちはいつも大人の抑えが効かない程元気に暴れまわっています。特別に便宜を図り、重要文化財など多く見せて下さる東本願寺の拝観で、子供たちがちゃんと出来るか大人は心配しましたが、子供たちは厳肅さのお蔭かじっとおとなしくて、大人を感激させました。

さて、観光ばかりではなく、全員で鯉のぼりの鱗の絵を描いて貼り付け、大きな2匹の鯉のぼりを作った共同制作や、「ビンゴ！」と歓声をあげ、沢山の景品の中から自分好みを沢山ゲットしたビンゴを始め、様々なゲームを楽しんだゲーム大会。何よりも支援者の皆様からお祝いのメッセージを頂き、モンゴルは民族衣装を着て歌や踊り、日本はこいのぼり他5月の歌をメドレーで披露して、参加者全員で「幸せなら手をたたこう」を合唱した交流パーティは大切なひと時でした。

食事では、担当者の料理以外にも、イタリアンレストランオーナーのキャンプに参加者による材料持ち込みでの本格的イタリアンの夕食、モンゴルの方手作りによる薔薇のように美しいポーズ(餃子のようなもの)の昼食、パン工房オーナーのサーバス会員は、モンゴルの方が一口食べるなり、「持って帰りたい」と言われた程美味しいパン(食パン、各種菓子パン)を毎朝、提供して下さいました。

私たちは、モンゴルの代表(モンゴルサーバス会長)Hさんが「ONE BIG FAMILY」と言われる程、絆を深められています。両国とも、障がい児家族はとても明るく、未来を向いて歩いています。

多くの協力が実を結び、今回の交流会が出来た事に対して、言葉に尽くせない感謝の気持で一杯です。

今回は日本サーバスの皆様に支援金をお願いする前に、知人を通じて支援金が集まったので、皆様には支援金をお願いいたしませんでしたが、いつも日本サーバスの応援を背中に感じて交流会に臨めました事、本当に有難うございました。日本サーバスの皆様には、どうぞ今後とも温かく見守っていただきます様に、よろしくお願いいたします。

近畿支部例会

6月24日(日)、奈良市のレストランで近畿支部会員 & 家族 10名が参加して、支部例会を行いました。奈良の会員は美味しいレストランを良く知っているのも、その料理も魅力の一つです。例会では、主に2018国内会議や5月実施の日本モンゴル障がい児交流会について報告や討議を行いました。その後は、お互いの旅行の情報交換等で盛り上がりました。例会の後、奈良町を散策しながら会員の友人の洋服展に行ったり、奈良公園の散策を楽しみました。



東海・北陸支部

移動例会を計画しています！

8月4、5日の移動例会はいつもより日程が遅いので、都合が悪い方も多かったのですが、ポーランドからSちゃん、J、韓国からYさんご夫妻の参加も得て、18名の参加で三重県津市の若杉の里でログハウスを借りて、8月4、5日に計画しています。夜のショウタイムも設けて、歌やダンスの交流も計画しています。

新入会員3名を迎えました！

関東支部

観光地の下見を兼ねてウォーキング！

関東支部長 T.N.

5月9日、支部の懇親会として 谷中一根津一千駄木 辺りをウォーキングしました。(詳細はWebで) 海外からのサーバス受け入れ時に東京の素敵な観光地をご案内出来るようになるための研修会です。

関東支部有志による懇親会・ウォーキングが行われました。10時日暮里駅に集合し、久保さんの案内で谷中一千駄木(お昼を東洋大学の学食で) 一根津神社一六義園 一旧古川庭園を訪ねる。その後は昔懐かしい都電に。飛鳥山公園一荒川車庫一大塚まで体験乗車。夕方5時に大塚駅で解散。ウォーキングは約12km、参加者は10名。お天気はあいにくの雨でしたが、気心が知れているサーバス仲間とウォーキングを楽しみながら、日本でのトラベラー受け入れ体験や海外旅行でお世話になったホストファミリーのお話しも聞け、とても楽しいひと時がもてました。 T.N.&Y.

新会員 は2名 東京都在住のYさんとRさんです。

次回活動は 9月29日、支部会を開催します。



九州支部

インドネシアサーバス交流の旅

(2018年6月22日～2018年6月28日)

九州支部長 T.Y.

九州支部の女性会員6名でインドネシア訪問をしました。最初の3泊はホテルで後の2泊は会員宅でステイしました。

22日(金曜日)福岡発10:00のシンガポール航空で出発です。福岡—シンガポール—ジャカルターソロ(ジャワ島中部、ブンガワンソロという歌で有名)3回乗り換えで待ち時間も入れると約14時間かかりヨーロッパに行く時間と変わりませんでした。空港にはインドネシア会員のKさんが待っていて下さいました。

次の日23日(土曜日)はKさんの車でソロ市内を回り、バティック博物館でインドネシアの伝統的な染色工芸—日本ではジャワ更紗としても知られている、ろうけつ染の布地のこと—実演も見せてもらいました。その後、市場でたくさんの果物を買込みKさんのお宅にちょっとお邪魔して日本では見かけない珍しい果物を皆で味わいました。お隣に奥さんSさんのご両親が住んでいらして笑顔で迎えて下さいました。

24日(日曜日)から27日(水曜日)まではミニバスをチャーターしてジョグジャカルタのヒンドゥー教のプランバナン寺院群(時間の関係で車窓から見た)、王宮クラトン(現在も王さまが暮らしている)日本語の通訳のAさんが一緒でした。夜は希望者だけジャワ伝統舞踊「ラマヤナ」を見に行きました。外国人入場料は地元の人の10倍近く高くてちょっと不公平。

25日(月)はムンドゥツ寺院へ。内部には3mの石仏三尊像が安置され、寺院の内壁や外壁に寓話の数々が描かれていて、今でも十分為になる教えでした。東に3km行くと日本でも有名な世界遺産の仏教遺跡ボロヴドゥール寺院へ。8～9世紀ごろ建造されたと考えられていますが、建造後、1,000年以上も密林の中で火山灰に埋もれていたと聞き、ますます興味をかき立てられました。この日はアンバラワのインドネシアサーバスの会長さんであるAさん宅へ。

26日(火)ミニバスでAさん一家、ラマダンで里帰り中の娘さん一家、サーバス会員のMさんと一緒にアンバラワ観光へ。行きながら途中、会員のSさんとJoさん、Suさんご夫妻の

家に立ち寄って、お茶をご馳走になり皆もバス旅行に参加。火山、湖、寺院とアンバラワの観光スポットを見せていただき、総勢19名の賑やかな忘れられない旅になりました。車窓から見る景色は段々畑が幾段も続き人は、朝は4時、5時から仕事に取り掛かりとても働き者だそうです。

27日（水）は帰る前に少し時間があったので、Aさんの家の近くのスーパーに行きました。わざわざMさんが同行してくれ調味料や、珍しい物の説明やお店の人と値段交渉などしてくださいました。

Kさんにはいろいろお世話になりました。優しい言葉や、心が伝わり何度も温かい気持ちになりました。Aさんご一家、サーバス会員の皆さんと一緒にの時間を過ごせ、何年も前からの友人の様でした。サーバスならではの貴重な経験ができ、また私の心に素敵なページが加わりました。お世話くださいました皆様に心よりお礼申し上げます。

新入会員が3名ありました！

東北支部

《作成中の会報をいただきました。その中の受入れ報告を掲載させていただきます。会報も近いうちにWebページで紹介されると思います。そちらもどうぞ！》

トラベラー受入れ報告

M.S.

オランダ 4/22-4/24 T.V.(25才 F) J.F.(27才 M.)

爽やかな若いカップルを受け入れました。最近私は体調がすぐれずここ数年、外国に出て行くことを諦めていました。ですから英語でコミュニケーションができるサーバス・トラベラーの受け入れがとても楽しみでした。

オランダ人のTとJはアジアの国々に大変興味があり既にタイ、韓国、マレーシア、インドネシア、ラオスなどを旅しています。Jaはこの旅のために仕事を辞めて来たそうです。ふたりは若いのに日本とオランダの文化交流の歴史を良く知っていて話が弾みました。異文化体験が好きな彼らの好奇心は旺盛で私たちは彼らから沢山の元気をもらえて楽しい3日間でした。これからも若い人と時代を超えて通じ合うものを見つけられたらと願っています。



最近では珍しくなっているヒッチハイクをして東京から仙台の我が家に来ました。通常のトラベラーであったら、まず私が最寄りの駅に迎えに行くことになっているので、この日も電話を待っていました。ところが夕方、玄関のチャイムが鳴ってTとJが笑顔で私たちの前に立っているのですから本当に驚きました。

スマホを使いこなしている彼らは駅から徒歩で1時間全く迷うことなく我が家に着いたそ

うで、スマホを使わない私には彼らの行動に感動してしまいました。今回の受け入れで、サーバス・トラベラーの間に「スマホ時代」が来たことを実感しました。

日本語の勉強はしていないのに、スマホから旅の目的地の漢字を見つけ出し「手書きカード」を作っていました。ここ 10 年間ほど、夫の会社にはパキスタン人、ロシア人、ガーナ人、中国人等の外国人が働いています。ふたりは日本で働く外国人労働者会遇到みたいと翌朝、夫と共に出かけに行きました。そこで 2 時間ほどの楽しい交流をしてから夫は彼らを松島海岸まで送って行きました。ここでもスマホが彼らに情報をくれて迷うことなく松島観光を満喫し、前日と同じく駅から 1 時間歩いて夕食までに戻ってきました。本当に手のかからないトラベラーでした。

翌朝、出勤する夫に近くの仙台・野村インターまで送ってもらい、安比高原に向けて出発して行きました。ここからもヒッチハイクで行くのでしょうか。手には「安比」と書かれた手作りのカードをしっかりと持っていました。安比高原では知人の経営するホテルで 5 週間泊めてもらい、ホテルの仕事を手伝い、代わりとして宿泊料金は無料にしてもらえる約束が出来ているそうです。今回は若いトラベラーならではの旅の一つの形を見させてもらいました。安比高原のホテルで宿泊客のために多に活躍していることでしょう。

2 国際サーバス会報の要約

国際本部から会報 2018 年 7 月号が出ました！

「国際サーバス会長からの News Bulletin が 7 月の始めに支部長さんを通じて配信されていたと思いますが、いつもの通り、国際部の N.M. さんに要約をして頂きました。」

配信された News letter No.2 Vol 9 の中から興味のある記事を紹介しましょう。

1) 始めから悲観的なニュースですが、国際本部の収入が年々減少しており、これから SOL など IT を活用した事業を展開する必要があるのに困ったことだと述べています。本部の主な収入源は各国から送られてくるスタンプ売上げ代金で、その売上げ状況はサーバスの魅力がどれほどのものかと示す指標にもなります。ことしの秋ソウルで行われる国際会議で大きな議題になりそうです。

2) 国際本部に集まったお金がどのように使われているかというところ、その 45%が国際会議の開催のために、SOL などの IT 事業の開発のために 35%が使われています。

3) イタリア人女性会員の R さんという人がサーバス旅行初体験に出かけるそうです。これからポルトガルのオペルトという町に行き、そこから徒歩または自転車で北の町フィニステレを目指す、ということです。はじめての体験で不安もあるが同じサーバスというネットワークに属する人たちとの出会いが楽しみだそうです。

4) サーバスのウェブサイトの世界で一番活用しているのはフランス、次がアメリカ、カナダと続いています。日本はイギリスについて5位に食い込んでいます。フランスは SOL 登録者数 で全世界の4分の1を占めているので、このような結果が出ているとか。

5) 毎年9月21日は「世界平和デー」ですが、2007年に設立された「サーバス・アーティスト」の会員が、今年も自分たちの作品をこの日に展示・発表するそうです。

3 日本サーバス本部活動報告

<A> 電子版ホストリスト (EHL)の発行についてのお知らせ

1. EHL 再発行の経過

国際サーバスでは2017年末までに Servas Online (SOL)に完全移行、ということで SOL を開始しました。日本サーバスもそれに合わせたロードマップで作業を進め、予定通り SOL への移行を完了しました。SOL が完全に稼働すれば電子版ホストリスト (EHL)は不要ですので、その発行も中止することを2017年の国内会議(仙台)で決定していました。

ところが、決定されていた期日までに移行できたサーバス参加国は30%程度でした。SOL にまだ参入できていない国のトラベラーにとってホストリスト無しではホストを探す手段がありませんので、その対応策として、各国が電子版ホストリスト (EHL)を再発行する措置を取り始めました。

日本サーバスもその事情を考慮し、2018年3月の国内会議(東京)で、EHLの再発行を決定し、IT委員長にその作業にあたっていただいています。作業は SOL に入っている会員リストを使って新しい方式で作成されています。その理由は担当のIT委員長によると

- (a) 従来の方式では、支部長さんを通じての入退会者の情報や会員の情報の更新等の取りまとめの労力が多大である。また、その後の担当者のデータ処理、編集のための労力も多い。
- (b) 新しい方式では、出来上がりのリストが、各国共通であることから、トラベラーにとって利用しやすい。また、入会、退会、データ変更が SOL 上のデータがそのままホストリストに反映するので、更新版作りが容易である。

という事だそうです。多大なご苦勞に感謝致します。

2. EHL の詳細住所の表示について

従来の EHL では、郵便番号と都市名または郡町名は表示し、詳細な住所は表示してありません。新しい方式でも同じ表示にしてありますが、SOL 上で現住所を入力している会員については、SOL の Visibility を All members にしていると入力データが表示されます。Visibility を Friend または Only me と指定すると郵便番号、都市名や住所も表示されません。そのため、SOL 上で住所を入力している会員の皆さんには SOL 日本管理者から現住所の表示について“了承”か“否”かについて問い合わせをして対応がなされたと聞いております。ご対応、ありがとうございました。

3. 新 EHL のドルフィンへの送信と会員への EHL 配信について

新しい方式による EHL の pdf ファイルは、予定通り 7 月末に国際サーバスの電子版ホストリストの保存システム「ドルフィン」に送信されました。各国のホストリストコーディネーター (HLC) はそこから日本のリストをダウンロードできることとなります。

日本の会員のみなさんへの配信については EHL の pdf をパスワード付きで各支部長に配信しますので、日本のリストを希望される会員は支部長さんへ申し出て下さい。ファイルを閲覧するにはパスワードが必要です。これはリスト情報を保護するための措置ですので、ご面倒をおかけしますが、ご理解いただきますようお願い致します。

 Servas Online (SOL) の利用について

SOL にこれまでログインした会員の状況は下記の通りです。

SOL にアクセス (パスワード取得、ログイン) していない会員の方は、是非以下の Web ページを御参考に SOL にアクセスされることをお願い致します。各支部長さんからの呼びかけもお願い致します。 <https://www.servas-japan.org/contents/SOL/SOL.html>

もし、ご不明の事がありましたら、各支部長さんかまたは、Web ページの "Contact Us"

<https://www.servas-japan.org/mailform/contact0-jpn.html>

へご連絡ください。SOL 日本管理者が対応致します。

「機器やシステムの使用は慣れるまでハードルがかなり高いのですが、使っていくと便利さも実感できます。でも、しばらく使用をやめると操作方法を忘れてしまうのが最大の難点でもあります。ときどき SOL の自分のページを開けながら、知り合いを探し、SOL からメールを送ったりされるのもいいのではないのでしょうか。何よりも自分の情報を最新版にしておくことが大切だと思います。」

<記> SOLへこれまでログインした会員の状況報告			
北海道支部	9会員 (4名ログイン)	東北支部	15会員 (5名)
関東支部	52会員 (25名)	東海北陸支部	42会員 (39名)
近畿支部	41会員 (28名)	中国四国支部	17会員 (9名)
九州支部	49会員 (34名)	計	225会員 (144名ログイン) 64%

<C> プロジェクトチーム結成について

遅くなりましたが2018年度の日本サーバス本部プロジェクトのリーダーを以下の方をお願いしましたのでお知らせ致します。文書係は会則改正で、会則・内規の中に入りましたので、Tホストリストコーディネーターに担当して頂くことになりました。プロジェクトチームは内容により年度によって改編があります。

2018年度結成プロジェクト名・内容・リーダー名一覧

プロジェクト名	内 容	プロジェクトリーダー
財政プロジェクト	予算編成・国内会議旅費支給等	H.T.
SOLプロジェクト	SOL推進・支援・国際SOLチーム内での活動	N.Sh.
STYLEプロジェクト	問い合わせ・実施等への対応	N.Su.
国際部プロジェクト	国際本部からの連絡、翻訳、苦情への対応等	T.K.
本部役員選考プロジェクト	役員選考	K.N.

<D> 国際会議 **Servas International Conference and General Assembly (SICOGA)** — 日本サーバスから5人参加予定

国際会議への参加申込者が多くてSICOGAの組織チームは締め切りを早めに行ったようです。そのために、申込を逸された方もあると聞き及んでおりますが、残念です。日本サーバスからは5人出席の予定です。次号で参加報告ができるといいなと思っています。

国際会議は個人がインターネットでシステムの書式に従って、参加申し込みを行わなければいけません。その後、指定の口座（スイス）に費用を振り込み、それが確認されてはじめて参加申込が受け付けとなります。その後も組織委員会からシステムを使った問い合わせ等があり、そういう対応にあまり慣れていない日本サーバスにとっては率直に言ってハードルが高いな—と思いました。SOLはそういうものに慣れていく練習台の一つかも知れないな、と思っています。（会長）

<E> 2019年度国内会議の日程 2019年 3月16（土）～17日（日）

3月の国内会議時に決定した通り、広島で開催予定です。期日は2019年3月16~17日。該当者の方は日にちを空けて置いていただけたらと思います。

来年の中四国支部地開催で国内各支部を一周したことになります。今後の開催地・開催時等については会議でご決定ください。開催会場については適切な場所を提起できない場合は貸し会議場を借りる予定です。よろしくお願い致します。

編集後記にかえて

はじめてインドネシアを訪れた。山の上まで果てしなく続くライステラスの光景はフィリ

ピン・ルソン島北部の山間地にあるライステラスと重なる。そして今回、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」となった隠れキリシタンの里、平戸市「春日集落」の棚田もそれと重なった。人を感動させる美しい光景だ。景色に見とれながら、その景色を作り出してきた人々の苦難の歴史と労働に思いが広がる。

旅は非日常の中、緊張感と驚きをくれる。
忘れかけていた「弾む心」を呼び戻し、知的好奇心を揺さぶってくれる。

気候・風土がちがえば
景色が変わる。ものがかわる。生活が変わる。

宗教がちがえば、価値観も異なる。
それぞれに歴史に育まれた今がある。
そのことを自らの目で確かめるよろこびは大きい。

旅人がもたらしてくれる未知の情報も新鮮だ。
時間と空間をシェアしながら感動を分かち合う。
金銭勘定なしに出会いを楽しむ。

サーバス活動の魅力だ。

(日本サーバス本部会報編集責任者
日本サーバス会長 O.T)